タイ公演

■１日目（２月４日～２月５日）

２０１２年２月４日（金）午後１０時３０分。塾生１８名、塾生のご主人１名、本部スタッフ（秋山、高石、天空）の総勢２２名が関西国際空港集合。各自チェックインし、タイ航空でバンコクへ。約６時間のフライト後、国内線に乗り継ぎ。出発時刻になっても飛行機が飛び立たないので、ちょっとドキドキしましたが、無事出発。約１時間後、チェンマイに到着。チャーターしたワゴン３台でホテル（ヤーンカムビレッジ）へ。アーリーチェックインをお願いしていたのですが、話が通ってなかったらしく、早めにチェックインできたのは３部屋。チェックインできる時間まで各自で食事タイム。１４時前に全員チェックイン終了。ユパラート高校の卒業生で日本語を教えているノックさんと合流し、１４時１５分からホテル内のバンケットルームでお稽古。ノックさんに日本で覚えたタイ語を自信満々でチェックしてもらうと苦笑い。うまくいくのか！！！約３時間のお稽古後、ナイトバザールへ。バザール内のレストランでタイ料理を食べた後、各自ショッピングを楽しみました。ホテルは都会の中にありながら木々がたくさんあるリゾートホテルでした。ある塾生さんいわく「今まで発起塾でいった旅行の中で一番いい」とのこと。

マクドナルドも「サワディカー」

ノック先生

ノック先生に発音をチェックしてもらう

ホテルのバンケットルームでレッスン

■２日目（２月６日）

午前中はメーサーエレファントキャンプで象のショーを見ました。塾長いわく象さんは２０バーツ（日本円６０円）が好きらしく、２０バーツ支払うと鼻に乗ることができました。そのあと、象の背中に乗り、お散歩。川に降りるときはハラハラしましたね。象使いは棒をもち、象を使うのですが、それで腹をつかれた塾生さんもいました。象と間違えられた？

象の鼻にのったら２０バーツ

川を渡る象。ちょっとハラハラドキドキ

昼食はキャンプ内で食べ、一旦、ホテルへ。音響の谷口さんと合流し、赤バスでユパラート高校へ。全員無事にユパラート高校に到着。まずは日本語学科の授業を見学。「どんな食べ物が好きですか？」「私は●●が好きです」という問答をしていました。途中から塾生さんも参加。学生が「どんな食べ物が好きですか？」と日本語でたずねて、それに対して塾生さんが答えました。みなさん日本語がとても上手でしたね。その後、会場に移り、リハーサル。２０時からホテル内のレストランで交流会をしました。

高校生の授業を参観

誰がなんといおうがＫＡＲＡです

男性も頑張りました

大笑いのノック先生とジャンタナー先生

■３日目（２月７日）

ワゴン２台でユッパラート高校へ。しかし１台がなかなかこないので、来るまで残ったメンバーはホテル前で自主練。それを見ていたホテル客（ラオスの山に登るという白人さん）が興味をしめして近寄ってきました。その人の前で「世界で一つだけの花」を踊りました。結局、赤バスで移動し、到着すると開演時間ギリギリ。急いで用意をして本番。客席には約３００名の学生（ユッパラート高校で日本語を学んでいる２年生）。タイ語の挨拶には？？？でしたが、４０年後のＫＡＲＡ が登場すると大盛り上がり。そこからボルテージがあがり、風船バレー、シンデレラ、そしてＡＫＢ４８と続くたびに歓声があがりました。２ステージ目はチェンマイで日本語を学んでいる学生２００名の前で上演。しかし１ステージ目のことを聞きつけてか、芝居が進むたびに学生さんが増えました。公演後、塾生さんからいただいた一口５００円応援基金の一部で購入した折り紙と折り紙作り機を教頭先生に贈呈しました。２月１０日に折り紙コンテストがあるためとても喜ばれました。昼食は高校の中で先生たちといただきました。とてもおいしかったですね。赤バスでホテルへ戻り、自由行動。スタッフは赤バスに乗って明日の買い出しのため、スーパーマーケットへ行きました。塾生さんはマッサージにいったり、買い物したりと思い思いにチェンマイを楽しみました。チェンマイは冬とのことなので暑くもなく、すごしやすかったですね。

バスがくるまでホテルの庭で準備運動

シンデレラ役の高校生はかわいかった

笑い笑いの高校での公演

お礼状をいただきました

■４日目（２月８日）

日本でタイ語を指導してくれた大村アトム先生と合流して、ＮＧＯ子どもの家へ。舞台は通常は子どもたちが食事をしているところ。といっても屋根しかないところです。食事班、舞台班にわかれて準備を行いました。発起塾では塾生さんが仕込み（舞台作り）をすることがないので貴重な経験です。みなさんで力をあわせて舞台を作りました。昼食は高石先生たちが近くで購入してきた惣菜を食しました。トムヤンクンに鳥と本場の味に感動しました。タイの料理は辛いというイメージがありますが、そんなことはありません。どれもとてもおいしかったです。食後、舞台でリハーサルしてると続々と子どもたちが学校から帰ってきました。今回は子どもの家で生活をしている子どもたちだけでなく、町で物売りをしているドロップと呼ばれる子どもたち、日本人が個人でやっているサンタの家で生活している子どもたちなど小学生から高校生まで約５０名ほどの子どもたちが集まってくれました。まずは子どもたちからサプライズで歌とダンスのプレゼントがありました。その後に発起塾の登場。子どもたちの中にはタイ語がわからない子どももいましたが、みんな笑顔で楽しんでくれました。特に風船バレーボールはとても気に入ってくれました。公演後、寿司パーティー。「おいしいおいしい」と食べてくれました。最後に「日本はいいところです。ぜひきてくださいね」というと「国籍がないので日本には行けない」との声。日本では国籍はあたりまえと思っているのでショックでした。帰りのバスでＮＧＯ子どもの家の日本スタッフの出羽さんと話をしたのですが、タイの人ではなく、少数民族の人たちが何かの理由で国を追われるか逃げ出した人たちが多いなので、国籍をとるのは難しいそうです。帰る時には塾生さんたちに抱きついてきた子どもたち。私たちの荷物を持ってくれた子どもたち。名残惜しさを胸にホテルへ戻りました。

みんなで力をあわせて準備

大村先生もお手伝い

寿司握りに挑戦！

子どもたちから踊りのプレゼント

大盛り上がりの風船ゲーム

あたりはすっかり真っ暗です

■５日目（２月９日）

朝５時に集合し、サイバー（お布施）へ出かけました。タイのお坊さんは毎日托鉢をし、托鉢でもらったものしか口にできないそうです。ほとんどが子どもたちです。３０バーツで供物を購入し、お坊さんがもっている入れ物にいれると、お経をよんでくれます。入れ物がいっぱいになるとお山に戻るそうです。ホテルに戻り、朝食をとったあと、あるお寺へ。そこにいたお坊さんをつかまえ、お話を聞きました。そのお坊さんはチェンマイ大学でマーケティングを教えていた元教授で、２年前にお坊さんになったそうです。タイではそういう方も多いそうです。帰りに子どもの家の子どもたちが作ったものを売っている店に案内してもらいました。ここで一口５００円応援基金をいただいた方のためにキーホルダーなどを購入しました。一個作るとそのうちの３０％を作った子どもがもらい、３０％が学校へいく資金に、残りの４０％が子どもの家の運営と材料などにあてられるそうです。
ホテルに戻り、チェックアウトし、一路バンコクへ。バンコクは交通渋滞がひどく、ホテルにつくまで想像以上の時間がかかったので、ホテルにチェックアウトしてすぐにニューハーフショー「カリプソ」へ。約１時間半のショーは見ごたえがありました。その中でも話題になったのがダチョウたち。ダチョウのかぶりものをかぶったニューハーフが足だけで踊るというものです。いつか発起塾で登場するかも・・・・です。

サイバーッ①

サイバーッ②

あるお寺で説法を聞く

子どもの家の子供たちが作った作品を売っているお店
商品価格の３０％が子どもたちに還元されます

ニューハーフショー

■６日目（２月１０日）

一日観光です。水上マーケット、ワット・ポー（涅槃像で有名）、エメラルド寺院などをめぐりました。ホテル内のレストランでの食事には巻き寿司があり、おいしいとの評判でした。そしてタイ舞踊体験へ。タイ舞踊のレッスン後、衣裳をつけ記念撮影をするという情報しかなかったのですが、衣裳をつけるだけでなく、メイク、ヘアもあり、その上、衣裳もその人にあった衣裳をつけてくれました。これには塾生さん大喜び。撮影した写真はその夜に額縁に入れて認定証と一緒にホテルに届けてくれました。とってもきれいにうつってました。

水上マーケット

エメラルド寺院にて

涅槃像の前で

タイ舞踊体験

先生と記念撮影

認定証をいただきました

■７日目（２月１１日）

とうとう帰国です。忙しく、あっという間の７日間でしたが「今までの旅行で一番楽しかった」「毎年やってほしい」「通常のツアーではない貴重な経験ができました」という声ばかりでした。観光ももちろん楽しかったですが、やはり高校と子どもの家での公演は貴重な経験でしたよね。子どもたちの笑顔は忘れられないものとなりました。怪我もなく、最後まで笑顔だった参加者のみなさんありがとうございました。そして日本で公演の成功を祈ってくださった塾生さんに深く感謝いたします。次はイギリスのエジンバラでの公演を塾長は考えているそうです。日本だけでなく、世界に塾生みなさんのパワーをどんどん届けていきたいと思います。今回のツアーでは大村アトム先生、ノック先生、ユッパラート高校のパチャリン先生をはじめ先生たち、ＮＧＯ子どもの家の出羽さん、ＨＩＳの加々美さん等、たくさんの方々のご協力も感謝いたします。ありがとうございました。

（文章：制作・天空魔王。）